キャラクター名
木ノ原 晃

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハィロゥ ソラリス	ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	18	性別	男性
覚醒	死	衝動	恐怖	初期侵食率	35 %
出自	政治権力	経験	一匹狼	邂逅	同行者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	3	0	0			3
精神	2	1	1			4
社会	3	0	1			4

HP	26
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	5		交渉		
回避	1		知覚			意志	3		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UNG幹部	
コネ：噂好きの友人	
コネ：情報屋	
コネ：要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
父親	P 感服	N 恐怖		
仇敵	P 遺志	N 敵愾心		
玉野椿	P 有為	N 嫉妬		
矢神秀人（ﾔｶﾞﾐﾋﾃﾞﾄ）	P 尊敬	N 憐憫		
伊藤薫	P 尊敬	N 不信感		
春日恭二	P 庇護	N 疎外感		
	P	N		

最大財産P:	8	残り財産P：	4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：エンジェルハィロゥ	2							
効果：	クリティカルを10から8に下げる							
光の弓	1	1	メジャー	視界	-	RC	-	
効果：	攻撃+Ｌｖ+2　同エンゲージのキャラクターを対象にできない。							
破壊の光	1	2	メジャー	視界	範囲（選択）	RC	-	
効果：	攻撃+2　同エンゲージのキャラクターを対象にできない。シーンに1回（Lv数）使用可能。							
光芒の疾走	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	戦闘移動、離脱。シーン中１回（Lv数）使用可能。							
流血の胞子	3	2	メジャー	視界	-	RC	-	
効果：	射撃攻撃　BS：邪毒　Lv３（Lv数）							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

名前：木ノ原 晃（きのはら こう）略してきのこ
性別：男性　年齢：18歳
１：僕　２：君
ふわふわとしたしゃべり方。

政治家の息子。両親、特に父親に虐待などを日常的に繰り返されており、恐怖の対象。その反面仕事をかっちりとこなす父親の仕事ぶりや家庭での暴力的な感情を表に出さないさまを見て感服する。
また、虐待を受けるたびに父親に対する恐怖とはまた違った、自分の内面から感じる食い破るような何かに対しても恐怖を感じており、自分が自分ではない何かになってしまうのではないかと感じていた。
そんな虐待の日常を過ごしているうちに、面倒になったのか邪魔になったのか、父親のよこした者たちの手によって殺されてしまう。
ここで自分は死ぬのかと薄れていく視界とも朦朧とした意識の中でまた内面から食い破るような何かを感じる。それは今までのように檻の中に閉じこもった虎のような感覚ではなく、ホースのついた蛇口から流れ出る水のように自分を支配していく感覚だった。
その感覚にたたき起こされるように息を吹き返すと、自分の周りでは何かがコンクリをえぐったような焼き溶かしたような痕跡や、路地裏で誰かがこっそり大事に育てていたであろうと推測できるような鉢植えに植わった植物が見るも無残に枯れてしまっていた。
とかなんとかで自分が今までの自分でないことを悟り、親に殺されそうになったために共に暮らしていても自分に不利になるだけだと悟り、家を出、自分の気を紛らわせるためにやっていた占いで高校に行きながらも生計を立てることにした。……んじゃねぇかなぁ……。
幼いころの虐待のせいで昔ほどではないものの自分よりも大きい人が自分の近くで手を挙げたりする、大きな声を上げるなどをすると反射的に何らかのアクションを起こす。（そちらを見る、一歩後ろに下がる、手で頭や顔を覆おうとする動作をするなど）
正直心穏やかに過ごしたい。
保護してくれたUNG幹部の人からオーヴァードのことやジャームのことなどは一通り説明済み……のはずだがあまりにもいきなりすぎていまだ理解が追い付かないところもある(中の人の知識がない言い訳)そんなことがあったために幹部の人とはちょっとした知り合いであり、たまに占ったりご飯に行ったりするんじゃないかなぁ……。